

**【八代市】**  
**校務DX計画**

令和5年3月8日付・文部科学省発出の「GIGAスクール構想の下での校務DXについて」により、令和の日本型学校教育を支える基盤としての校務DXを実現するために必要な今後取り組むべき施策が示されたところである。

本市においても以上を踏まえ、校務DXによる学校現場の働き方改革をはじめとしたさらなる教育の情報化を行っていく必要がある。

1. 現状について

デジタル庁が公表している2024年2月時点における「市区町村ごとの校務DXの取組状況(半分以上がデジタル化)」における本市の結果は以下のとおりである。10項目中9項目において、本市のデジタル化が全国平均を上回っていることが伺える。

市区町村名		全国	八代市
教員と保護者間の連絡のデジタル化	欠席・遅刻・早退連絡	58%	70%
教員と保護者間の連絡のデジタル化	お便りの配信	33%	40%
教員と保護者間の連絡のデジタル化	調査・アンケートの実施	51%	53%
学校内の連絡のデジタル化	校内での資料共有	67%	70%
学校内の連絡のデジタル化	校内での情報共有	72%	83%
学校内の連絡のデジタル化	調査・アンケートの実施	58%	65%
教員と児童生徒間の連絡等のデジタル化	各種連絡の廃止	23%	15%
教員と児童生徒間の連絡等のデジタル化	調査・アンケートの実施	45%	50%
その他	FAXの原則廃止	4%	5%
その他	押印・署名の原則廃止	13%	18%

① 教員と保護者間の連絡のデジタル化

お便り、調査・アンケートについては、令和5年度より導入した「安心・安全メール」により、保護者のメールへの一斉連絡を可能としている。欠席・遅刻等の連絡は前述の「安心・安全メール」または「Microsoft Forms」にて作成している申請様式にて簡素に報告ができるようになっている。しかしながら学校間・学年等により導入状況に差があるため、今後はさらなる利用率の向上にむけ周知を行っていく必要がある。

② 学校内の連絡のデジタル化

校内での資料・情報共有方法については施設内設置のファイルサーバ、校務支援ツール「ミライム」、「Microsoft Teams」により行われている。今後は利用率向上に加え、校内研修や職員会議といった場においても各種ツールを用い、紙面削減に寄与することが課題である。

### ③ 教員と児童生徒間の連絡等のデジタル化

令和3年度より本格的に児童生徒用端末の持帰りが行われたことにより、「Microsoft Teams」を使用しての連絡・調査・アンケート実施が浸透しつつある。しかしながら、紙面を用いる等既存の連絡手段の廃止にまでは至っておらず、今後改善していく必要がある。

### ④ その他

法令・規則により押印・署名が必須となっていないものについては教育委員会所属各課において、鋭意廃止の努力を行っているところである。また、押印・署名に加えてFAXの利用についても令和7年度中に学校での原則廃止の方針が令和5年12月20日第3回デジタル行政改革会議に示されており、本市においても周知徹底を行い、校務DXを推進し、さらなるデジタル化に取り組んでいく。

## 2. 今後について

### ①クラウドサービスの拡充

国の「次世代の校務デジタル化実証事業」の成果を参考に、今後の教職員の働き方像を描きながら、情報収集を行い校務支援システム、授業支援システムのクラウドサービス化を進めていく。

### ②FAX・押印等の抜本的見直し

「1. 現状について」の表のとおり、9割以上の学校でFAXが未だ活用されている状況である。また、8割以上の学校で押印・署名が行われていることを鑑み、制度・慣行にとらわれない抜本的見直しを行っていく。